

地域密着型サービス評価の自己評価票(東の間)

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人として共通の理念と方針がある。さらに、事業計画を理念・方針に基づいて作成している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記の理念・方針の他に職員の行動目標と行動指針があるが、グループホーム独自の事業計画も作成しているそれらに基づき日々実践している。なお、毎朝朝礼時に当日出勤者で復唱し確認し合っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には、法人の理念等や事業計画を送付したり、家族懇談会にて説明を行っている。ホームページ、広報誌にも掲載している。さらに、法人役員の方々の多くが地元地域の方の代表でもある。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	納涼祭、もちつき大会等の大きな行事には、ご近所にチラシを配ったりポスターを貼ったりして、家族ぐるみで参加して頂いている、その事により近隣の梨、ぶどう農家の皆さんより梨狩り・ぶどう狩りの声を掛けて頂いている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の役員の中には地区の区長、民生員、ボランティアの代表の方がいつも含まれているので地域の行事・清掃など共に行っている。近隣の小中学校の文化祭、運動会へ参加したり来所して清掃して頂いている。更には市の文化祭にはお店を出し住民の方々に事業所を知って頂いている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人独自で一人暮らしや準独居の方へ安否の確認の意味で配食を実施している、また、地域の避難所として役にたてるよう、食品・毛布の備蓄及び炊き出しの訓練を行っている。	○	防災班を中心に独居の方を地図に落とし、把握出来るように具体的に行動したい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は3年目になるが評価について改善できるよう取り組んでいる。利用者の接遇に生かせるよう職員教育に力を入れている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については市よりの指示がなかったため取り組みをしていないが当法人より働きかけをしているところである。	○	いろいろな意見を頂き、サービスの向上に努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当事業所は市庁舎も近く市との連携もとりやすい状況である。市職員等も来所されたり、当方よりいくことがたくさんある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	役所、民生員、リーガルサポート等との連携の結果と申します。制度の理解については社会福祉士等の研修がある。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修報告会にて研修している。新聞記事を利用しグループワークをしている、身体の傷についてはお風呂等で常にチェックしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、他事業書(居宅・支援センター等)よりの情報収集による入所契約が多いため、他事業所よりの希望の聞き取りが十分になされている、その他見学にも来て頂き案内している。契約書については、一条一項目づつ説明を加えて印を押して頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見については、管理者および職員は書式に基づき記録を行っている。不満苦情は、改善策を話し合うシステムが出来ている。また、それについては、評議員(市のボランティア代表・民生員代表)と監事(元保護士)による第三者委員を委嘱し苦情(他に事故等)や改善についての評価を頂いている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常生活の暮らしぶりについては、グループホーム通信を月に1度家族に送付している。健康状態、金銭管理、職員の異動については年2回のケアプランの説明会及び家族懇談会において報告させて頂いている。又、健康状態等変化がある場合などは、その都度家族へ報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、不満、苦情については契約時に些細なことでも言ってもらえるよう説明をし、他にアンケート等を利用し意見を頂き改善に努めている。苦情等に付いては上記の13番と同様に第三者委員評価を頂いている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営については職員が会議のなかで話し合っ決定している、それに基づいて行事計画等日々の生活を支えている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表については、職員間で調整出来るようになっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年に一度職員と面接を行いちょっとおかしいなと思ったときは悩み等の話を聞き改善している。なお、結婚、家庭の事情等で辞める職員については、利用者の前で紹介し利用者から花束等を渡してもらっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修については、新人研修、現任研修等行っている。また、外部より講師を招いての研修も実施し多くの職員に参加してもらっている。さらには様々な研修に参加を促している(別紙)資格についても勉強会を予定している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者の方との交流についてはネットワークが出来ている。勉強会については連絡があれば、他部署からも参加者がおり復命研修会を通して情報を共有化することによりサービスを向上させている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各部署横断の委員会や行事への参加による職員間の連携や月1度の作文提出により悩み等には管理者によるアドバイスが添えられ返却となる。また、出勤時には体温や出勤時間及び体調の自覚についての記録簿があるのでそれにより体調不良者に聞き取りができています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月に一つ、班目標・個人目標をグループで話し合い決めている。自己評価についてアドバイスを行い乗り越えられる目標の設定等アドバイスをしている。また、働くことの意義等時間を作って繰り返し話し合うことに努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人が困っている事については他部署(居宅・支援・デイ・S S)等より情報をもらっている。入所にあたっては事前調査を行い本人の気持ちを聞き、安心できるよう傾聴の心で接しコミュニケーションをよく取る努力をしている。更には本人の意向を職員間で共有できるよう職員に回覧し入所の準備を行っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所希望ご家族には法人全体で支援できる旨を伝えグループホームだけに留まらないサービスが提供出来るよう各部署と連携をとっている。契約時には契約書1条1項の説明の中にそれに伴う今までの事例などを含め説明している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときには、当法人の在宅介護支援センターや居宅の職員に報告をしてその人にあったサービスを検討し後日、家族・本人にサービスの説明をしている。相談は居宅や在宅支援センターからの紹介が多く、それ由部署間の連絡を密にし情報の共有かを図っているその情報の中から、本人、家族の支援のための短期での入所についても相談に対応している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談を受けたら、必ず1度は本人に事業所の雰囲気を感じていただくために見学に来ていただき肌で感じていただく。また、家族と連絡を密に行い要望を伺い本人が馴染めるようにしている。ケアマネに情報の依頼をしている。デイサービスを利用されている場合はグループホームへ来て頂いたり徐々に慣れて頂いている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の自立支援のために要望を聞き利用者に声かけを行い共に作業などを行っている(皿洗い、洗濯干し・畳み)。さらには頼っている姿勢を見せ、気持ちよく良く手伝って頂き必ず感謝の言葉を伝える。もし、利用者が出来ないときはさりげなく手伝いをする。	○ 男性の利用者に対する対応を家族・本人にも聞き、職員で話し合っている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、家族に日頃の状況を必ず説明してから本人と面会をしていただいている。面会後に家族が感じたことを必ず聞いて家族と共に本人を支援していくための話をして協力を頂いている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会が少ない家族には連絡を行い面会に来ていただくようにしている。また、本人から家族にいけない要望を職員が聞いてその内容を家族に話し、さりげなく家族に本人の要望を行ってもらい信頼の構築をされている。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望を聞いて家族に連絡を行い外出や面会を行ってもらっている。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	GH全体の雰囲気は職員の気配り観察によってやわらかいと考える。座席のお互いの相性に配慮し利用者の納得いく形にしている。独立しがちな方には職員が間に入り他利用者との関係が持てるよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	当施設を退所された、後1か月後くらいに連絡をして状況の確認をしている。さらに退所時には、いつでも相談に対応出来る旨の説明を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に生活上で都合の悪い事はないか確認をしている。伝えることのできない利用者に関しては、本人の言動・表情から読み取れるよう努め、家族にも相談している。また本人の希望が強いときは家族を交えて対応を検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所相談がある時点で、他事業間の情報の共有化に努めている。さらに、事前調査書を必ず回覧をして利用者の情報を収集させている。また、誰もがいつでも見られるようにケース記録に綴っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員同士での情報の交換を行い利用者の新たな発見や、以前と違うことの情報収集して日々利用者の支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画新しく作成前には、必ず他部署からの情報の入手、本人・家族との面接時における要望の聞き取りを行っている。更新については、前に面会にいらした時などを利用し家族と話をし意見・要望を聴いてそれを生かせる様つとめている。さらに介護計画説明時に不備がないかケアプラン説明会等に聞いている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	年2回(敬老会・ひなまつり会)に介護計画を計画担当者が個別に説明している。その際に家族より要望があったときは変更を行い、後日再度説明をしている。また、利用者の状態が変わったときは介護計画の変更を家族に伝え、速やかに新しい介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に各利用者の生活状況や変化を記載して介護計画を作成する時に活用している。介護計画に添って支援を行い不都合がある場合は部署会議にて話し合い状況に合わせた見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の経済的な理由身体的理由等の相談、要望についてはいつでも相談に応じる旨を入所契約時や家族懇談会で伝えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の保育所・小中学校より招待がある際は、利用者に伝え積極的に参加している。さらに、中学生・高校生による実習体験やボランティアも受けている。民生員からの要望により入居された方もいる。消防本部については、災害時自身対応についても訓練の立ち会い・通報訓練・AED・救命訓練等指導及び協力をお願いしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	経済的・身体的理由により他の事業所への入所も支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には施設で協力を依頼している病院へ職員対応にて受診している。家族が希望する遠距離病院は家族対応をお願いしている。協力病院以外でも必要時は随時受診の対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修において「尊厳」「プライバシー」等についての法人としての考え方を伝えたり接遇についての研修を開催して教育の徹底を図っている。例えば、失禁の確認はさりげなく声を掛け、必ず取れで確認し、対応している。記録物に関しては、十分に気をつけるよう教育している。	○ 新人についてはまだ十分な教育が実施されていない。また、記録物の保管場所も検討していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の希望を叶えるために、担当者が一人一人に何がしたいのか聞き取りを行い聞いてその実行に向けて企画を立案し実行さらに反省を行って次につなげる努力をしている。	○ 自己決定の出来ない利用者の心に添えるようさらに努力をしたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活時間に合わせた生活の支援について常に考え話し合っている。	○ どのようにすれば集団生活の中にも一人ひとりの希望に沿った、支援ができるか職員間で相談し検討していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の希望で施設に来所している理美容を活用したり、理美容店へ利用者と共に来店している。行事の時は化粧や洋服を選んで頂いている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間は、利用者・職員と一緒に摂っている。準備・片付けを率先して行って頂いている利用者もいる。しかし、身体状況により限られた方のみになってしまっている。	○ 無理をせず、利用者の状態をみてその方にあったものを提供していきたい。また、一緒には行うことができなくても好みを聞き、食事が楽しみの一つになるよう工夫していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	起床時にコーヒーを飲む方、朝食はパンという方などできる限り希望に合わせて提供している。又、毎週日曜日のおやつは利用者に希望をとりおやつを購入したり、作ったりしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時でのトイレ誘導と尿意・便意のチェック表を用いそれぞれのリズムに合わせてさりげなく誘導を行っている。さらに、食後など定時でも声かけを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後からとさせていただき、毎日行い一人一人希望伺い入浴していただいている 毎日入る人、たまには入る人それぞれに希望に応じている。	○	どうしても入らない方もいらっしゃるので職員間の協同により上手に対応したい。また、月に何回かはデイサービスセンターの浴室を使い環境を変えて対応している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間眠れない方には温かい飲み物を提供し職員と共に会話をしながら過ごし気分を落ち着かせて頂その後休んでいただく。また、午後からアロマオイル入りの足浴を行い、リラックスして頂いている。日中、疲れの見える方は声掛けを行い居室にて休んでいただいている。ホールにはソファもあり自由に休むことができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草取り、家事等を楽しみして下さる利用者もいる。気晴らしについては、天気の良い日の散歩・ドライブ等行っている。毎朝夕ホールの掃き掃除をしてくれる利用者もいる。ホールなどの掃除を自主的におこなって頂いている。	○	限られた利用者だけでなく、一人ひとりの生活歴にあったものを提供していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭等は持参している方もいる。その他のお金については事務所で本人・家族の了解のもと預かっている。外出・買い物時は、本人の財布をお渡ししている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に散歩に行っていたり、外で日光浴やお茶を召し上がって頂いている 近所で桜が咲けば花見と行事、さらに、買い物、保育所・小・中学校の運動会・地域イベントの参加など実施している。時間があるときは、ドライブも実施している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出行事班が企画を行い利用者みんなで出かけた食事したりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に気兼ねなく使用できる。はがきを使用し、手紙を出している方もいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決めず家族が面会したい時に自由に過ごしていただいている。そのとき、職員から挨拶を行う。また、面会時に、お茶等お出ししている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないのは法人としての決まりごとであり、全職員に周知している。また、やむおえず行う際は家族に理解を頂き(病気の時)記録をする決まりになっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵については、他の利用者による侵入を防ぐためにご自分で鍵をかけている場合もある。自動ドアについては、朝・夜間は危険防止のため施錠している。日中は、センサーを利用している。	○	一階、二階と自由に行き来できるよう、他部署と連携していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	各ユニットに見守り担当を置いてその担当者が利用者の状況を把握して安全に生活ができるように配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬・洗剤・刃物(包丁等)については鍵がかか場所にて各当番が保管して必要に応じて使用している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「ヒヤリハット・事故」「苦情相談表」と「家族連絡」を使用し誰もが記入できるよう指導し報告させている。この報告書の分析は主任・班長が話し合い分析・予防と活用している職員の教育やケアプランの見直し等必要であればそこで対策を考えている。さらに第三者委員にこの報告書の開示を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	総合医務会議において緊急時対応時の指示・止血法の勉強会を行い各部署にマニュアルは作成されている。またAEDを購入した事で消防署によるAEDのための心肺蘇生訓練を全職員が実施している。	○	新人についてはまだ十分な教育が実施されていない
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災担当者による防災計画訓練が企画されている。年2回消防署職員を招いて避難訓練を行っている。ホットラインを使用した消防署への通報訓練も行っている。地域の民生委員・ボランティアの方が法人の役員になっており、随時協力が得られるようになっている。	○	地元消防団員、地域住民と連携をとり避難訓練等を行い、施設の理解を求めたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時に家族には最近のことを話して本人の状況をしていただくよう努めている。また、今後考えられるリスクに関して話をして対応策を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	項目どおり実施している。職員の気付きの教育に力を入れている。そして、常に状態を観察し異常(へんだな)と考えた場合病院へ受診する。家族への連絡も実施している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	項目どおり実施している薬局より出ている情報書だけでなく本を購入してどのような副作用があるか確認している。配薬についてはチェック表を活用し、飲み忘れ等ないか気をつけている。	○	職員のみでなく、パート職員も把握・実施できるよう指導していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	1日1回乳製品を召し上がっていただいたり、水分を多く取るよう声掛けを行っている。さらに、1日1回実施の体操の参加を促している。(便秘予防体操)	○	下剤に頼り過ぎている方もいるため、何か違うものも試していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行っている。嫌がる方にも、最低うがいだけはしていただいている。(イソジンにて実施) 義歯使用者は夜間ポリデントなど使用し清潔保持に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日のカロリー1370kcal、水分摂取量1500cc 食事・おやつを量をチェックを行い栄養士・医務と連絡をとりあい体重の変動に注意をしている、どうしても食事に偏食の有る方については家族に好みの物を聞いて対応をしている。食事については飲み込みの状況で変化をつけている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成して各自が見れるようにしている。 新人研修でマニュアルを読み合わせ指導している。 医務会議で常に確認し法人全体で連携できる体制にある インフルエンザの季節にかかわらず職員はうがい・手洗い・体温測定・睡眠時間・健康状態について出社時記入している。面会家族にも周知しうがい手洗いをお願いしている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒については法人全体の問題であるため厨房により購入し管理を徹底している。さらに、食材はすぐに冷蔵庫にて保管している調理で使用する道具は使用前汚れていなくても洗ってから使用する。使った道具は食器類が片付いた後に殺菌消毒を行う。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関、玄関ホールには、花や観葉植物を置き誰でも入りやすい環境等を作ってる。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースとして和室・ソファを活用し、ホール内は季節感がでるよう装飾している。	○ もう少し、生活感がでるよう職員で意見を出し合い工夫していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファ、和室を利用者同士談話スペースとして活用している。又、他ユニットの利用者が自由に行き来できる構造にもなっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時等に、ご自宅で活用していた、ベット・タンス等を持ってきて頂き環境作りに努めている。持ち込みは自由である事を契約時に説明を行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度・湿度の季節による適温を表示し温度・湿度計によりこまめに調節している。また、利用者の状態の様子観察にても調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーで利用者が使用するところに手すりを設置し安心して生活が送れる。流し台・台所・手洗いを工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室のドアがすべて同じであるので居室入口にはネームボードを掛けて自分の居室がわかるようにしている。トイレの入口の色の工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑があり、利用者と一緒に栽培している。また、物干し場もあり活用している。玄関先には、椅子があり日光浴を楽しむこと共に散歩体操を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input checked="" type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input checked="" type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)